

連日、絵本や紙芝居、児童書、一般書に郷土資料、雑誌まで、約3千冊を載せて市内を走る1台の車があります。移動図書館「くろしお号」です。児童生徒はもちろん、高齢者や妊娠中の人、子育て中の保護者など、移動や時間に制限のある人も、無料で本を借りられます。停まるのは、公民館や小学校、団地や宿舍、集会所の前。図書館まで足を運ばなくても、本のほうから暮らしのそばへやってきます。

「初代くろしお号」が走り出したのは、平成3年（1991年）8月1日。市制施行20周年記念事業の一環でした。車名は新聞などで募集し、市民から寄せられた案は192点。その中から選定委員会が選んだのが「くろしお号」でした。黒潮の青い海の中を元気に泳ぐ魚のように、糸満市の子どもたちにもそうあってほしい。名前には、そんな願いが込められています。そして、その思いは、歴代の車両へと受け継がれています。

平成25年、老朽化した初代の思いを引き継いで、2代目が走り出します。後部室内に車いす用のリフトを設置し、バリアフリーに対応。より多くの市民が本とふれあえるようになりました。2代目が走った11年余りで、延べ10万2千人が利用しています。令和6年6月には、企業からの寄贈を受けて3代目の運行が始まりました。車体を彩り、人目を引きつけるイラストは、糸満市出身の漫画家・大城さとしさんが描くキャラクター「エイトマン」。「くろしお号」の名称をイメージしたシーンが描かれています。

35年間、絶え間なく市内を走り続けた「くろしお号」。届けた本は、延べ120万冊以上にのぼります。ワンクリックで電子図書が読める時代になっても、紙をめくって読みたいと願う人や、図書館まで行けない人のもとへ、本のほうから会いに行きます。35年前に始まったこの取り組みは、これからの暮らしの中でこそ価値を持ちます。地域で本を心待ちにする人のために、今日も「くろしお号」は本を載せて走り出します。

―特集― くろしお号35周年記念

市民とともに歩んだ、35年



子育て中のルーティーンに
くろしお号



糸満市立中央図書館
きんじょう つよし
館長 金城 毅 さん

最も親しみがある「初代くろしお号」。小学校に我が子4人が通っていた当時は、西川区公民館に「くろしお号」が巡回に来ていました。娘2人は競って本を借り、ほぼ毎回10冊、私はついでに1〜2冊ほど借りていました。公民館から自宅まで、袋いっぱいの本を重たそうに持ち歩いてた娘たちの様子が今でも思い浮かびます。あの頃、子育てルーティーンの中に確かに「くろしお号」がいました。思い起こせば楽しくて、充実した日々だったと思います。

その「くろしお号」も3代目。多くの方々との出会いを大切にしながら、これからも元気に走り続けることを願っています。

2代目くろしお号が
地球の裏側で走る

令和6年5月、市内での巡回を終えた「2代目くろしお号」。糸満市での役目を終えた2代目の新しい旅先は、地球の裏側でした。整備などの手続きを経て、支援団体を通じて船に積まれ、令和8年3月、南アフリカ共和国ハウテン州の教育図書館に到着。日本各地から贈られた移動図書館車が集まる場所です。

そこから現地のデザインに塗り替えられ、学校を巡回します。これまでよく目にしていたデザインは新たな装いに生まれ変わり、書架には違う言語の本が並びます。

黒潮の青い海を元気に泳ぐ魚のように。35年前、市民がその名に込めた願いは、海を越えた場所が続いています。



ハウテン州教育図書館
へ引き渡しました！